

売数量は 103 万トンとなっています。

(3) 民間在庫の推移

平成 31 年 2 月末現在の全国段階の民間在庫は、出荷・販売段階の計で 260 万トンとなっています。

(詳しくはこちら)

○「平成 30 産米の相対取引価格・数量（平成 31 年 2 月）（速報）」

→ http://www.maff.go.jp/j/press/seisaku_tokatu/kikaku/attach/pdf/190315-1.pdf

○「平成 30 年産米の産地別契約・販売状況（累計、うるち米、平成 31 年 2 月末現在）（速報）」

→ http://www.maff.go.jp/j/press/seisaku_tokatu/kikaku/attach/pdf/190329-2.pdf

○「民間在庫の推移（速報）」

→ http://www.maff.go.jp/j/press/seisaku_tokatu/kikaku/attach/pdf/190329-1.pdf

本資料及び過去の調査結果（相対取引価格）は、当省ホームページからご覧になれます。

→ <http://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/aitaikakaku.html>

上記情報も含め、米に関する価格動向や需給動向に関するデータを集約・整理した「米に関するマンスリーレポート」を毎月上旬に公表しています。

→ <http://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/mr.html>

平成 30 年 10 月号から見所をまとめた簡易版の作成を始めましたので、併せてご利用ください。

★ 「食料・農業・農村政策審議会 食糧部会」が開催されました ★

3 月 27 日(水曜日)、「食料・農業・農村政策審議会 食糧部会」が開催され、「麦の需給に関する見通しの策定」及び「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針の変更」について審議が行われ、了承されました。

2019 年度の麦の見通しと共に、小麦の代替品としての米粉についても流通量の見通しを提示し、2019 年度の国産米粉用米の流通量見通しは過去最高となる 3.6 万トン(18 年度需要見込みと比べ 5,000t 増)と示しました。ノングルテン食品の人気の高まりによって米粉の需要が拡大しており、流通量の増加が見込まれます。

また、併せて「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針」の一部変更も諮問、原案通り答申されました。主食用米の需要見通しと需給見通し数量は 11 月指針と変更はありません。

(当日の配布資料はこちらから)

→ <http://www.maff.go.jp/j/council/seisaku/syokuryo/190327/index.html>

(「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針」はこちらから)

→ http://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/beikoku_sisin/index.html

★「平成 31 年産水稲の 10a 当たり平年収量」について ★

3 月 15 日(金曜日)、農林水産省は、「水稲の作柄に関する委員会(平成 30 年度第 3 回)」(平成 31 年 3 月 14 日開催)の意見を踏まえ、平成 31 年産水稲の全国及び都道府県別 10a 当たり平年収量を決定しました。なお、平成 31 年産水稲の作柄表示地帯別 10a 当たり平年収量については、6 月末頃を目途に決定します。

ふるい目幅 1.70 ミリにおける平成 31 年産水稲の全国の 10a 当たり平年収量は、前年産より 1kg 増加の 533kg となりました。都道府県別では、青森県、岩手県、宮城県、福島県、群馬県、千葉県、新潟県、富山県、和歌山県、広島県及び長崎県が前年産に比べ引上げとなりました。

(詳しくはこちらから)

→ <http://www.maff.go.jp/j/press/tokei/seiryu/attach/pdf/190315-3.pdf>

水稲の 10a 当たり平年収量は、農作物共済事業における共済基準単収の算定や、水田活用の直接支払交付金の交付単価の算定等で利活用することができます。

(プレスリリースはこちらから)

→ <http://www.maff.go.jp/j/press/tokei/seiryu/190315.html>

★「平成 31 年産米等の作付動向(第 1 回中間的取組状況)」の公表について

★

農林水産省では、産地・生産者が主体的に作付を判断し、需要に応じた生産・販売を行うことができるよう、きめ細やかな情報提供を行うこととし、その一環として、都道府県農業再生協議会及び地域農業再生協議会からの聞き取りに基づき、都道府県段階および地域段階の作付動向(中間的取組状況)を公表しているところです。

各産地・生産者におかれては、今回の公表結果を参考にされ、需要に応じた生産・販売へ向けた取組をより一層進めていただくことが期待されます。

1. 各都道府県の平成 31 年産主食用米の作付動向(平成 31 年 2 月末現在)の見込み
増加傾向 1 県／前年並み傾向 40 県／減少傾向 6 県

2. 各都道府県の平成31年産戦略作物等の作付動向（平成31年2月末現在）の見込み

(1) 飼料用米

増加傾向 12 県／前年並み傾向 21 県／減少傾向 12 県

(2) 加工用米

増加傾向 15 県／前年並み傾向 16 県／減少傾向 12 県

(3) WCS（稲発酵粗飼料）

増加傾向 10 県／前年並み傾向 24 県／減少傾向 9 県

(4) 米粉用米

増加傾向 13 県／前年並み傾向 21 県／減少傾向 10 県

(5) 新市場開拓用米（輸出用米等）

増加傾向 23 県／前年並み傾向 12 県／減少傾向 1 県

(6) 麦

増加傾向 14 県／前年並み傾向 26 県／減少傾向 6 県

(7) 大豆

増加傾向 9 県／前年並み傾向 26 県／減少傾向 10 県

(8) 備蓄米

増加傾向 20 県／前年並み傾向 4 県／減少傾向 6 県

(注) 「麦」「大豆」については、二毛作面積を含む

(詳しくはこちらから)

→ http://www.maff.go.jp/j/press/seisaku_tokatu/s_taisaku/attach/pdf/190315-1.pdf

(プレスリリースはこちらから)

→ http://www.maff.go.jp/j/press/seisaku_tokatu/s_taisaku/190315.html

★ お米の消費拡大情報サイト「やっぱりごはんでしょ！」（更新情報） ★

お米に関する様々な魅力を紹介するサイト「やっぱりごはんでしょ！」では、新たなコンテンツ・情報を随時更新しております。

また、掲載内容はFacebook/Twitterでも紹介しておりますので是非御覧ください。

(「やっぱりごはんでしょ！」へのアクセス→)

<http://www.maff.go.jp/j/syouan/keikaku/soukatu/gohan.html>

(Facebookへのアクセス→)

<https://www.facebook.com/maffgohan> (外部リンク)

(Twitter へのアクセス→)

https://twitter.com/MAFF_GOHAN (外部リンク)

○最近の掲載情報

(1) 吉野家の定食「ご飯おかわり無料」サービスを開始

4月1日 15時から、毎日 15-24 時にて定食全メニューで「ご飯おかわり無料」サービスを実施中！

(2) 「大満足！てんこ盛弁当」の新発売

ファミリーマートでは、3月19日から、ご飯の量が通常の1.5倍(約300g)とボリューム満点のお弁当を新発売！ストアスタッフとスーパーバイザーが開発した、お手頃価格でボリューム満点なお弁当を是非御賞味ください！

このほかにも、もち麦ごはんのレシピや米粉メニュー、ごはん健康になれる情報等の関連サイトも掲載しております。

これからも、ごはんをもっと好きになる、もっと食べたくくなるような情報をお届けしますので、是非御覧いただき、また周りの方にも御紹介ください。

★ 「稲作コスト低減シンポジウム」が開催されました ★

平成31年3月5日(火)に、農林水産省で「稲作コスト低減シンポジウム」が開催されました。このたび、講演資料を農林水産省のウェブサイトに掲載しましたのでお知らせします。

シンポジウムでは、稲作のコスト低減に効果が大きい多収化の取組について農林水産省から取組イメージを交えつつ講演したほか、飼料用米、輸出用米、米粉用米の多収化の取組事例の発表や、多収品種やその種子供給の取組の紹介が行われました。

また、各講演では、講演者の方から品種の選定方法や施肥の仕方などの具体的なアドバイスを受けたり、輸出のような新たな取り組みを始めたきっかけについて質問が出たりするなど、会場との活発な意見交換が行われました。

(稲作コスト低減シンポジウムの開催概要についてはこちらから)

→ http://www.maff.go.jp/j/syouan/keikaku/soukatu/sympo/sympo_sium_2018.html

★ 「日本産米を世界へ！」(動画)の公表について ★

今般農林水産省HPで公開をしている、コメ輸出動画を新たにリニューアルし、3月26日に公開しました！

コメ輸出全体の説明、輸出手続きの流れに関する説明、輸出用米の生産に取り組まれている方々へのインタビュー等以下の動画を新たに作成しました。ぜひ御覧ください。

1. 「日本産米を世界へ」

日本食の海外展開の現状、コメ・コメ加工品の輸出の現状、海外ニーズの紹介を行っています。

(動画はこちらから) → <https://youtu.be/0w4t0XwHCm4>

2. 「日本産米を世界へ」 (①手続き一般編、②中国向け輸出の留意点)

① 手続き一般編では、輸出手続きの工程、植物検疫、残留農薬基準、原発事故に係る輸入規制に関する注意点、各手続きに関する問い合わせ先を紹介しています。

(動画はこちらから) → <https://youtu.be/PT8-bninkIg>

② 中国向け輸出の留意点では、中国向けに特に留意すべき手続きや輸入規制についての紹介をしています。

(動画はこちらから) → <https://youtu.be/L7AqRjBhvLQ>

3. 「日本産米を世界へ！輸出への挑戦 生産者たちの声」

現在輸出用の米を生産し、海外での販売に取り組まれている生産者の方々へのインタビューを収録しています。今回のインタビューでは、百笑市場の石島氏、Wakka Japanの出口氏、京都祐喜の香山氏にご協力いただきました。輸出に取り組むことになったきっかけ、海外での販売状況、どのようなことを意識しながら輸出に取り組んでいるか等をお聞きしました。

(動画はこちらから) → <https://youtu.be/xakl4pjfhrY>

★ 「新時代のコメの輸出に向けたシンポジウム」が開催されました ★

2017年9月にコメ海外市場拡大戦略プロジェクトを開始して1年半が経ち、改めて輸出事業者と輸出産地の取組を共有するために、3月26日(火曜日)に農林水産省でシンポジウムを行いました。シンポジウムの中での講演(事業者・産地の輸出取組)を御紹介いたします。

○JETRO

日本産米の輸出量・金額はアジアを中心に右肩上がり、「高いけれども、おいしい」と評価されている。しかし、他国の短粒種と比べた際の価格差が、国によっては2倍以上の差があるので、それを上回る価値が必要で、海外市場での需要・商流づくりのためにサポートしていきたい。

○(株)神明

昨年12月、(株)ゼンショーホールディングスとともに中国の「すき家」で日本産米を使用したキャンペーンメニューを実施し、イベントに合わせ、富山県産米が24トン輸出された。中国の現地小売店でPR・イベントを行ったり、現地の小売・飲食店バイヤーやメディアを招いた日本米PRレセプションを行ったりして、日本産米の美味しさや品質、安全性を知ってもらえるようなプロモーションを行っている。フラン

スでは大型スーパーマーケットで日本産米 400g サイズを販売している。

○木徳神糧（株）

中国の北京では、日本料理レストランで日本産米への切り替えを進め、特別メニューとして提供しており、また、現地の調理師学校で日本産米の特徴や炊飯方法を学生にレクチャーしている。ベトナムで行われた「ジャパンベトナムフェスティバル」ではおにぎり 6,000 個を配布した。

○JA 全農

中国において ABC Cooking Studio とタイアップして、日本産米を使用したオリジナルレシピのレッスンやお米の炊き方のレクチャーを行った。ABC オンラインマーケットで日本産米の販売ができるスキームを構築したため実売につなげることができた。

○JA ぎふ

多収品種の導入を進めている。輸出用米は特に（農）巢南営農組合（瑞穂市）が力を入れており、31 年産の生産量は 70 トンから 120 トンまで拡大する予定。輪作体系に組み込んだ輸出用米生産も検討中で、管内全体での生産目標は年間 500 トン。興味のある実需者の現地視察を受け入れたい。

○JA 会津よつば

輸出は 27 年産からヨーロッパ向けに開始した。輸出用米は 10 a 14 俵を目標に掲げており、実際に 14 俵穫りの例も出てきているので、「農家の経営に輸出用米を組み込み、取組を支援していきたい」とした。

○（株）フィードイノベーション（秋田県大館市農業生産法人）

今後輸出用米の取組を 100 トンまで広げていきたい。商品に差別化をつけるために、2014 年にイスラム圏向け輸出用にハラール認証を取得し現在認証更新を継続している。

○京都祐喜（株）（京都府与謝野町農業生産法人）

京都与謝野町では、20 年かけて 100%天然素材の有機肥料を使用するなど自然循環型農業の体型を確立しており、そこで生産された「京の豆っこ米」が、昨年初めて、中国に輸出され、今年の 2 月 4 日、さらなる輸出促進のために与謝野町と京都祐喜が「輸出用米の振興に関する協定書」を提携した。

引き続き本プロジェクトへ参加される事業者及び産地の募集を行っておりますので、御関心をお持ちの皆様は、ぜひ参加を御検討ください。

本プロジェクトに関するご質問がございましたら、担当までお気軽にお電話下さ

い。

担当：政策統括官付農産企画課企画班

電話番号：03-3502-8111（代表）、03-6738-8964（直通）

F A X : 03-6738-8976

★「米に関するメールマガジン」のアンケートを実施しています★

読者の皆さまにより有益な情報配信ができるよう、「米に関するメールマガジン」のアンケートを実施しています。今後、米に関するメールマガジンで取り上げて欲しい内容、メールマガジンに対するご意見ご感想等を募集しておりますので、宜しくお願い致します。

（回答はこちらから→）

https://www.contactus.maff.go.jp/j/form/seisaku_tokatu/kikaku/160815.html

【編集後記】「令和」

新年度になりました。元号が「令和」に変わりますね。生まれてずっと平成だったので慣れるのに時間がかかりそうです。桜の季節は別れと新たな出会いがあります。職場でとてもよくしてもらっていた女性の上司が異動になりました。寂しいですが新しい環境に慣れないとなあと思います。新しいものに慣れるのには時間がかかります。入省して2年目になりましたが、1年目は毎日緊張していました。新しいこと・ものに慣れるのに時間がかかる人はたくさんいるのではないのでしょうか。日本産米も海外で爆発的に売れる日がいつか来ると思います。2年目もコツコツと地道に、ご飯もたくさん食べて頑張ろうと思います。みなさん新年度もよろしくお願いいいたします。

【米に関するメールマガジン】

発行：農林水産省政策統括官付農産企画課